

## G3 平成 21 年度活動報告

大森 肇

### 【1】研究目的

G3 のめざす最終ゴールは、「筑波大学の共通体育における再構築モデルの実践と評価」である。これは、「筑波大学体育センターの教育活動を中心とした『大学体育』の過去の総括と現状把握」を目的とする G1 の活動と、「大学体育カリキュラムモデルの再構築」を目的とする G2 の活動との延長線上に位置付けられる。G1・G2 の活動の成果を受けて、G3 が本格的に再構築モデルの実践と評価を行うのは平成 23・24 年度であるが、それに先行して平成 21 年度は「評価方法の確立に向けた情報収集」を行うことを目的とした。

### 【2】構成員

○ 大森 肇、小俣幸嗣、山田幸雄、坂本昭裕、平山素子、本間三和子、安藤真太郎、鍋山隆弘、小田 梓、武田 剛、津田龍佑

### 【3】活動報告

#### (1) 会議

定例会議を中心として 9 回の会議を開催し、その内 1 回は G3 セミナーとして行った。各会議の概要は以下の通りである。

第 1 回(平成 21 年 7 月 31 日): G3 のゴール・プラン・アクションについての自由討論

第 2 回(平成 21 年 11 月 24 日): 1) 役割分担の提案、2) 予算案の説明、3) 今年度の会議予定、4) 教育評価の専門家からの

情報収集の必要性論議、5) 専門家候補のリストアップ要請

第 3 回(平成 21 年 12 月 1 日): ①文献紹介 1) 「Moving into the Future (National Standards for physical Education) 2<sup>nd</sup> ed., National Association for Sport and Physical Education, 2004」、2) 「大学における教育評価の背景と意義、ならびに自己点検・評価及び第三者による大学評価の在り方、塩沢, 2009」、3) 「学力調査と教育評価研究<特集> 学力政策と学校づくり、田中, 2008」 ②教育評価の専門家リストアップ: 梶田毅一氏(兵庫教育大学)、塩沢一平氏(山梨学院大学)、田中耕治氏(京都大学)、岡出美則氏(筑波大学) ③論議: 本プロジェクト研究での「評価」の教育評価における位置づけに対する共通理解の要請 (G1・G2・G3 メンバーおよびコア会議メンバー全体で)

第 4 回(平成 21 年 12 月 15 日): 第 1 回 G3 セミナー「体育科の評価論」岡出美則氏(筑波大学)

第 5 回(平成 22 年 1 月 12 日): ①文献紹介「アメリカにみる学校体育カリキュラム改革の動向、友添, 2002」 ②論議: 1) 教育目標に即した評価法提案の必要性、2) 2009 年カリキュラム特別委員会で提案された 6 つの教育目標の妥当性・達成目標の確認の必要性、3) 教育評価における第三者評価の必要性、4) 疫学的な調査に基づ

いた自然科学的エビデンスの説得力や客観性を本プロジェクト研究に用いることの有用性、5) 評価方法のたたき台作成へのアクション

第6回(平成22年1月19日):①文献紹介1)「大学の授業評価—大学教育の変革と創造に向けて—, 北神, 2003」、2)「大学体育は学生の何を变えうるか—大学体育授業評価システム開発とモデル授業の構築—, 横澤ら, 2005-2007」②評価の専門家リストアップ:「中竹竜二氏(早稲田大学):評価法」、「荒尾 孝氏(早稲田大学)、内藤義彦氏(武庫川女子大学):運動疫学の研究デザイン」、「中田由夫氏(筑波大学):体力統計学」ほか ③論議:1) 上記北神文献における大学の授業評価の観点をG3の評価に組み込むことの提案、2) G1による卒業生アンケートの実施項目をG3評価項目へ導入することの提案、3) 高校までの体育の問題点を大学体育へ反映させるか否かに関する問題提起、4) G3による教育評価方法の提案(その1)

第7回(平成22年2月2日):①文献紹介「日本の大学における日本語教育プログラム評価の評価基準の試作とその試行, 田丸, 2005-2006」②論議1) G1卒業生アンケート実施案の紹介、2) G1卒業生アンケート実施案について因子分析や信頼性尺度を利用した項目数の検討の必要性、3) 現行および2009年カリキュラム特別委員会提案の教育目標と、各授業の学習目標との対応関係を確認する必要性、4) G1・G2・G3間の議論促進のために、G3としての評価試案作成の必要性、5) G3による教育評価方法の提案(その2)

第8回(平成22年2月16日):論議1)スポーツ科学イノベーションフォーラムにおける

G3のプレゼンテーション内容を「G3の役割、大学体育評価の内容・方法・評価者について」とすることの提案、2)プレゼンテーションに向けて、これまでG3会議で紹介された文献のレビューを各委員が分担する事の提案

第9回(平成22年2月22日):①文献紹介「教育評価入門 学びと育ちの確かめのために, 梶田, 2006」ほか ②論議:1) 各委員による文献レビューの発表と論議、2) 授業評価と教育評価の相違に関して、G3メンバー内で共通認識を再確認する必要性

## (2) 研究発表

下記の要領で本研究プロジェクトのG3中間報告を行った。G3のこれまでの主な成果として、1) 教育評価と成績評価・授業評価の関係性を明確にした上で評価をする必要があること、2) 教育目標に応じた成果を評価する必要があること、の2点を報告した。

- ・学術会議名:スポーツ科学イノベーションフォーラム
- ・プログラム:シンポジウムIV「スポーツ教育におけるリノベーション」 パネルディスカッション「大学体育モデルの再構築を目指して」
- ・日程:平成22年3月2日(火)14:00~17:00
- ・場所:筑波大学会館 特別会議室
- ・演題:再構築モデルの実践と評価に向けて
- ・演者:大森 肇

## (3) セミナー参加

評価方法確立に向けた情報収集のために、下記の要領でセミナーに参加した。本研究プロジェクトをエビデンスベースで推進し

ていくにあたり、非常に有益な情報が得られた。

- ・セミナー名：第10回運動疫学セミナー
- ・日程：平成22年3月4日(木)～6日(土)
- ・場所：IPC生産性国際交流センター
- ・講師：荒尾孝氏（早稲田大学）、内藤義彦氏（武庫川女子大学）、種田行男氏（中京大学）、井上茂氏（東京医科大学）、中田由夫氏（筑波大学）、澤田享氏（東京ガス）ほか4名
- ・内容：「運動疫学入門」「疫学概論」

「研究デザイン論」「Evidence Based Medicine概論」「基礎統計学」「運動疫学に関するグループワーク」など

- ・G3からの参加者：大森 肇、武田 剛

#### 【4】今後の展望

平成22年度は「評価方法の確立に向けたさらなる情報収集」に加え、「評価方法の試行と確立」に向けて、一層の進展を目指している。